

# 家畜の飼養衛生管理に係る取組事例集

平 成 2 5 年 1 1 月

農林水産省消費・安全局

動 物 衛 生 課

○家畜防疫に関する最新情報の把握等

■ 農場の飼養家畜:乳用牛

■ 家畜の飼養規模:5,400頭

## ■ 飼養衛生管理基準の該当項目

### 第一 家畜防疫に関する最新情報の把握等

## ■ 写真



## 写真の説明

団体発行の月刊情報誌に「家畜伝染病の発生状況」として海外での口蹄疫の発生状況を毎月掲載し、組合員へ情報を周知。

## ■ 取組内容の詳細

A酪農組合は組合発行の月刊情報誌に海外での口蹄疫発生状況を毎月掲載し、全組合員に対して注意喚起を行っている。原稿は酪農組合からの依頼により、家畜保健衛生所が最新の情報を提供している。

## ■ 取組による改善状況等

海外で口蹄疫が継続していることを組合員が理解し、衛生管理水準の向上に役立っている。

■ 農場の飼養家畜:豚

■ 家畜の飼養規模:9,000頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第一 家畜防疫に関する最新情報の把握等

■ 写真



写真の説明

家保職員が農場において直接研修会を開催。

■ 取組内容の詳細

農場における衛生状況及び最近の家畜衛生の知見等について説明した。

■ 取組による改善状況等

農場の衛生状況を各エリア担当従業員が情報共有することで、問題点を農場全体で把握することができ、生産性の向上が図られた。

また、口蹄疫の発生状況も伝達し、危機意識の醸成を図った。

## ○衛生管理区域の設定

■ 農場の飼養家畜:採卵鶏

■ 家畜の飼養規模:30,000羽

## ■ 飼養衛生管理基準の該当項目

### 第二 衛生管理区域の設定

#### ■ 写真



#### 写真の説明

衛生管理区域をコーンとラインで区分。外来者用駐車場をラインで明確化。車両進入禁止と外来者用駐車場の利用を促す立て看板の設置。

#### ■ 取組内容の詳細

衛生管理区域の境界にラインを引き、立入り禁止と書いたコーンを設置。外来者に対し「ここから先は一般車両進入禁止。こちらに車を停めて下さい。」の立て看板を設置するとともに、外来者用の駐車場をラインで明確化し、衛生管理区域への立入りを制限している。

#### ■ 取組による改善状況等

外来者へ農場立入りの際の防疫ルールを周知させることにより、衛生管理区域への不用意な侵入を防止できるようになった。

**○衛生管理区域への病原体の持込みの防止**

■ 農場の飼養家畜:乳用牛

■ 家畜の飼養規模:500頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持込みの防止

■ 写真



写真の説明

動力噴霧器の故障を防止するためにカーフハッチを設置。

■ 取組内容の詳細

農場入口に動力噴霧器を常時設置し故障を防止するため、動力噴霧器を不要となったカーフハッチに収納し保護した。

■ 取組による改善状況等

これにより農場入口に動力噴霧器が常設され、車両消毒が全天候で可能になった。

■ 農場の飼養家畜:肉用肥育牛

■ 家畜の飼養規模:400頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持ち込みの防止

■ 写真

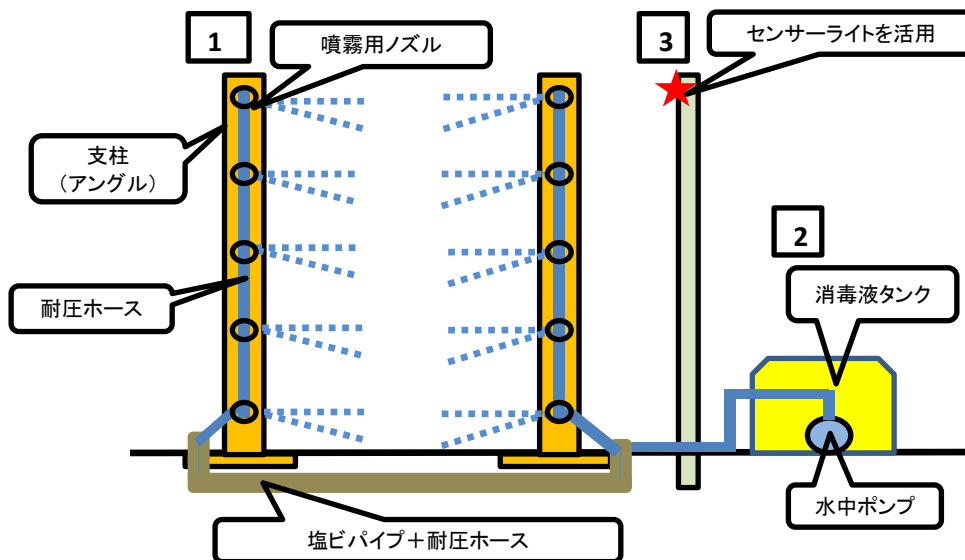


写真の説明

写真1:車両消毒装置。車両が通過すると自動的に消毒液が車両全体に噴霧される。1本の支柱にノズルが5個ある。

写真2:支柱と消毒タンク。

写真3:センサーはセンサーライトを改造。



■ 取組内容の詳細

現代農業2010年9月号に掲載された事例を参考に、地元業者に相談し、安価で容易に入手可能な資材を利用した車両消毒装置を設置。

(<http://www.ruralnet.or.jp/gn/201009/syodoku.htm>)

車両が進入すると、センサーライトのスイッチが作動し、給水ポンプの電源が入り、タンク内の消毒薬が噴霧ノズルから噴射される。

主な資材は、薬液タンク、支柱、ノズル、塩ビパイプ、給水ポンプ、センサーライト等。(部品代約13万円)

支柱の固定や配管の地中埋設等の基礎工事、配線工事は業者が施工。

■ 取組による改善状況等

自動消毒装置を設置することにより、すべての進入車両を自動的に消毒できるようになり、省力化につながった。

■ 農場の飼養家畜:肉用牛(肥育経営)

■ 家畜の飼養規模:300頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持込みの防止

■ 写真



写真の説明

衛生管理区域入口に、消毒用マットを設置。

■ 取組内容の詳細

農業団体が主となり、組合員に車両消毒用の消毒マット設置希望者を募り、設置を促した。

■ 取組による改善状況等

消石灰による車両消毒を行っていたが、消毒マットを設置することにより低コスト化と天候に左右されない確実な消毒が可能となった。

■ 農場の飼養家畜:豚

■ 家畜の飼養規模:肥育豚 2,558頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持ち込み防止

■ 写真



写真の説明

- ・衛生管理区域の出入り口に看板を設置、部外者の立ち入りを制限
- ・衛生管理区域に入る車両の消毒
- ・衛生管理区域専用の衣類及び靴を設置

■ 取組内容の詳細

- ・衛生管理区域入り口において、車両を消毒し、駐車。
- ・人は消毒済みの長靴、防疫衣を着用して入場。
- ・作業後は長靴を洗浄し、消毒。着用後の防疫衣は、指定の容器へ投入。
- ・長靴の収納容器内には、消毒液が容れてある。

■ 取組による改善状況等

- ・衛生管理区域に入る際に専用の長靴と作業衣を着用するだけでなく、豚舎に入る際にさらに長靴を履き替えることからバイオセキュリティが向上した。
- ・長靴は常に消毒されている。

■ 農場の飼養家畜:豚

■ 家畜の飼養規模:肥育豚 2,558頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持ち込み防止

■ 写真



写真の説明

・豚舎専用の作業着と長靴の設置

■ 取組内容の詳細

・来場者は、衛生管理区域入り口で長靴、防疫衣を着用して入場した後、豚舎に入る際には再び長靴を履き替える。

■ 取組による改善状況等

・衛生管理区域に入る際に専用の長靴と作業衣を着用するだけでなく、豚舎に入る際にさらに長靴を履き替えることからバイオセキュリティが向上した。

■ 農場の飼養家畜:豚

■ 家畜の飼養規模:3916頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持込み防止

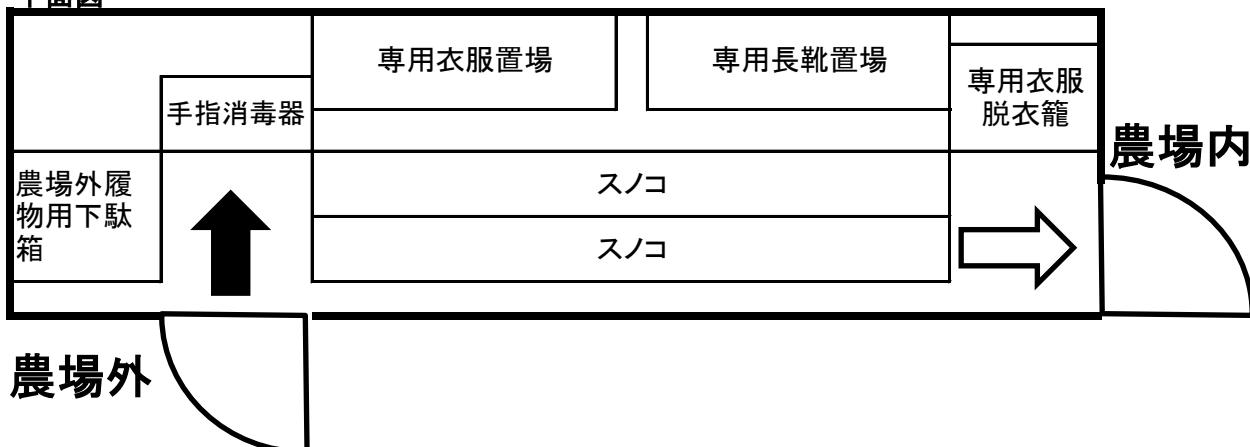
■ 写真



写真の説明

飼養衛生管理区域の入口に、コンテナ(トラックの中古の荷台)を設置。

平面図



■ 取組内容の詳細

従来は、農場の事務室で行っていた外来者の更衣について、飼養衛生管理区域と外部との分離を確実にするため、出入口に、中古のコンテナを設置した。

当該コンテナ内で、場外の汚れを場内に持ち込まない(交差汚染のない)よう、専用の着衣、長靴の履き替え及び手指の消毒を実施することとした。

■ 取組による改善状況等

農場出入口に、中古のコンテナを設置することにより、少ない経費で、衛生管理区域への病原体侵入防止対策の徹底が図られた。

■ 農場の飼養家畜:養豚

■ 家畜の飼養規模:母豚約300頭一貫経営

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体持ち込みの防止

■ 写真



写真の説明

養豚農場入口に靴置き場(廃車を利用)を設置。

■ 取組内容の詳細

飼養衛生管理区域に農場外で履いていた靴で立ち入らないようにするために、農場入口に廃車を利用した靴置き場を設置し、飼養衛生管理区域に立ち入る者は全て専用長靴に履き替えるようにした。

■ 取組による改善状況等

農場外で使用していたものは飼養衛生管理区域内には極力持ち込まない方針が採られている(飼養衛生管理区域内の中の畜舎区域内に立ち入る者(従業員含む)は、この農場入口で農場内専用長靴に履き替えて農場入口付近にある着替え棟に行き、この着替え棟において、農場内専用着衣に着替え、長靴も更に別のものに履き替えるという徹底がなされている)。

■ 農場の飼養家畜: 豚

■ 家畜の飼養規模: 9,000頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持込みの防止

■ 写真



写真の説明

衛生管理区域外に、レンダリング専用のコンテナ(冷却機能付)を設置。

■ 取組内容の詳細

レンダリング業者に対しては衛生管理区域内の入場を許さず、場外で受渡している。

■ 取組による改善状況等

不要な外部からの侵入を防止し、病原体の侵入防止が図られた。

■ 農場の飼養家畜:採卵鶏

■ 家畜の飼養規模:6,000羽

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持込み防止

■ 写真



写真の説明

- 衛生管理区域を設定し、ポール等を設置。
- 人、車両の出入り口に消石灰を散布。

■ 取組内容の詳細

- 衛生管理区域を設定し、ポール等を設置し、業者や鶏卵・堆肥等購買に訪れる者等へ、区域設定を明確に表示。
- 関係車両以外は衛生管理区域内に立入らせず、区域手前に駐車させる。
- 関係車両及び人の出入りに対し、出入り口に消石灰を散布し消毒の徹底を実施。
- 出入り口部分のポールに、立ち入り禁止(一週間以内の海外渡航歴者の立ち入り遠慮等)の表示。



■ 取組による改善状況等

- 衛生管理の徹底に取り組んでいることが、取引業者や購買者に理解され、訪れる側の意識の改善にも繋がっている。
- また除糞作業は定期的(2~3日毎)に行い、鶏舎内に滞留している量は少なく、併せて石灰散布や消毒等も随時行なっていることから、臭いやハエの発生がほとんどない。



■ 農場の飼養家畜:採卵鶏、種鶏

■ 家畜の飼養規模:16,000羽

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持込みの防止

■ 写真



写真の説明

衛生管理区域及び家きん舎の出入り口付近に立ち入る者用の消毒薬効果のある状態で常設。

■ 取組内容の詳細

踏み込み消毒槽に人の腰の高さ程度の取っ手を取り付けた蓋を設置し、直射日光および雨水混入を防いでいる。また、踏み込み槽内に内蓋を設置し消毒薬の蒸発等を防いでいる。

■ 取組による改善状況等

- ・蓋と内蓋があることで持続的な消毒薬効果が期待される。
- ・取っ手を取り付けることで蓋の開閉が容易となり、かつ踏み込み消毒槽の設置してあることをアピールできる。
- ・来場者に対して農場の厳重な衛生対策意識の高さをアピールできる。

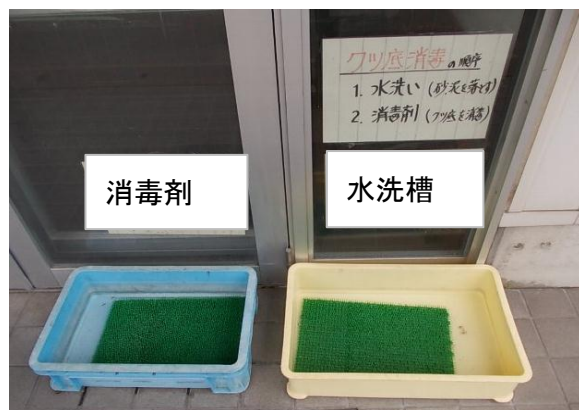
■ 農場の飼養家畜:採卵鶏

■ 家畜の飼養規模:50,000羽

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持ち込みの禁止

■ 写真



写真の説明

靴底消毒を二段階に分けて槽を設置し消毒。

①最初に水洗槽で靴底の汚れを落とす。

②消毒剤の入っている槽で靴底消毒。

誰でも消毒の方法がわかるように張り紙で説明。

■ 取組内容の詳細

靴底を消毒するために水洗槽と消毒槽の2種類が設置されている。

消毒の方法は

①水洗槽で靴底の汚れを落とし

②消毒槽で靴底の消毒を行う。

水洗槽と消毒槽の底に人工芝を敷いてあるため、靴底の溝の汚れを落とし、消毒液を浸透させることができる。

■ 取組による改善状況等

消毒方法の説明が表示されているため、誰でも確実に消毒が実施可能。

また、消毒液の効果を阻害する有機物等を水洗槽で落としてから、消毒液で消毒するので、消毒槽のみの消毒よりも効果が高い。

■ 農場の飼養家畜:採卵鶏

■ 家畜の飼養規模:1,600,000羽

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持込みの防止

■ 写真



● 第1車両消毒ゲート

入場者が手指消毒及び全身噴霧消毒を実施。  
その後、車両消毒。

● 第2車両消毒ゲート

鶏舎エリア内に侵入する車両  
は、さらに車両消毒を実施。

■ 取組内容の詳細

① 車両消毒の徹底

- ア 第1車両消毒ゲートにおいて、入場者は手指(スプレー)及び全身(噴霧)を消毒。その後消毒ゲートにおいて、車両消毒を実施。
- イ 鶏舎エリアに侵入する場合、第2車両消毒ゲートにおいて、さらに車両消毒を実施。
- ウ 廃鶏を運搬するトラックについては、他農場を経由しており車両消毒をさらに徹底する必要があることから、第1車両消毒ゲートと第2車両消毒ゲートのあいだで動力噴霧機による車両消毒を実施。

② 鶏舎内専用の作業着の使用

- ア 農場衛生管理マニュアル(作業着の着脱)

■ 取組による改善状況等

- ・従業員に衛生管理を徹底することにより、従業員の「病原体等を持ち込まない、持ち出さない。」といった意識が徹底、共有された。

■ 農場の飼養家畜: 鶏

■ 家畜の飼養規模: 30,000羽

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持ち込みの防止

■ 写真



写真の説明

職員の衛生管理区域専用の衣服及び長靴は、区域内で洗濯及び洗浄。

■ 取組内容の詳細

衛生管理区域専用の衣服及び長靴を準備し、衛生管理区域外で着用する衣服及び靴は更衣室で着用することで、職員による衛生管理区域への病原体の持ち込み防止に万全を期している。

■ 取組による改善状況等

職員の衛生管理意識の向上が図られている。

■ 農場の飼養家畜:

■ 家畜の飼養規模:

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持ち込みの防止

■ 写真



写真の説明

立入禁止看板用のチラシの作成。

■ 取組内容の詳細

立入禁止看板用のチラシを作成した。このチラシは、野外に貼る際の雨対策として、濡れても大丈夫なビニール製にした。また裏面には、口蹄疫の症状及び侵入防止対策が書かれており、畜産農家にはこれを複数枚配布して、口蹄疫について注意を喚起するチラシとしても利用できるようにした。

■ 取組による改善状況等

野外で濡れても大丈夫なため、農場入口等に貼ってある立入禁止看板を本紙に交換する農場が認められた。

■ 農場の飼養家畜:牛・豚・鶏

■ 家畜の飼養規模:大規模

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持込みの防止

■ 写真



写真の説明

家保独自に作成した立入禁止看板を全飼養農家に配布(製作費65円/枚)。

■ 取組内容の詳細

飼養衛生管理基準の巡回時に、家保独自で制作した立入禁止看板(A3でプリント後ラミネートしハトメを付けたもの、製作費65円/枚)を配布した。

■ 取組による改善状況等

- ・全家畜飼養農場において看板が設置され、衛生管理区域の明瞭化・立入制限ができた。
- ・立入禁止の看板を管内統一したため、本看板が設置された場所に家畜が飼養されていることが一般の人に判り易く周知された。

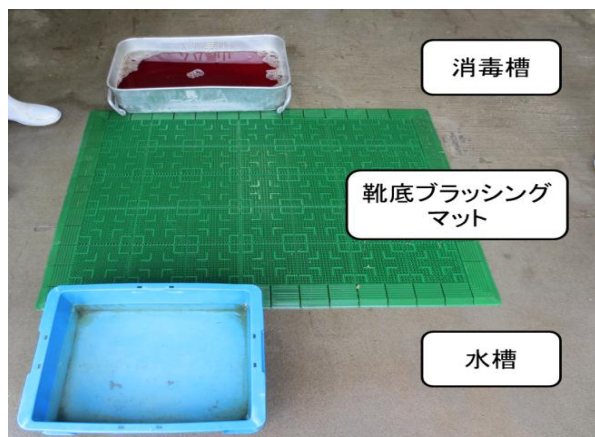
■ 農場の飼養家畜:豚、肉牛、鶏

■ 家畜の飼養規模:豚29頭、肉牛7頭、鶏389羽

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持込み防止

■ 写真



写真の説明

水槽と靴底ブラッシングマット(有機物の除去)と消毒槽を設置した事例。(水槽→マット→消毒槽の順に入る。)

■ 取組内容の詳細

水槽と靴底ブラッシングマットを設置して長靴の有機物を除去することで、踏み込み消毒槽の消毒剤の減耗を防止し消毒効果を持続させる。

■ 取組による改善状況等

消毒効果を持続させることにより、消毒剤の費用を抑えられる。また、農業高校の家畜飼養施設なので、学生への衛生意識の教育効果も期待される。

○野生動物等からの病原体の侵入防止

■ 農場の飼養家畜:牛(乳用)

■ 家畜の飼養規模:100頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第四 野生動物等からの病原体の感染防止

■ 写真



写真の説明

・畜舎出入口に二重の防鳥ネットを設置。

■ 取組内容の詳細

・畜舎への野鳥の侵入を防ぐため、畜舎出入口に二重の防鳥ネットを設置している。

■ 取組による改善状況等

・前室での作業のため、外側のネットを開いても、畜舎奥へ野鳥が侵入することはない。

■ 農場の飼養家畜:牛(黒毛和種:肥育)

■ 家畜の飼養規模:70頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第四 野生動物等からの病原体の侵入防止

■ 写真



写真の説明

・牛舎開口部に防鳥ネット設置。

■ 取組内容の詳細

第四 ○防鳥ネットの設置等の畜舎の野生動物の侵入防止

牛舎開口部の防鳥ネットにカーテンレールを取り付け、開閉を容易にしている。ネット下部にはチェーンを絡めせるとともに、両側には余裕をもってカバーできる位置にフックを設置することで、風による開閉を防止している。

■ 取組による改善状況等

・高度な衛生管理意識により、ネズミ、ハエ等野生動物の発生が最小限に留まる。

■ 農場の飼養家畜:乳用牛

■ 家畜の飼養規模:成牛368頭、育成48頭、子牛28頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第四 野生動物等からの病原体の侵入防止

■ 写真



写真の説明

哺育牛舎へ野生動物が侵入するのを防止するために、ネットを設置。

■ 取組内容の詳細

野生動物が狙いやすい哺育牛舎に防鳥ネットを設置することにより、侵入を防止するとともに、給餌設備への野生動物の排泄物が混入しないよう対策を講じている。

■ 取組による改善状況等

哺育牛舎への野生動物対策には苦慮していたが、牛舎全体をネットで覆うことにより、侵入はほとんどなくなった。これにより、畜主の管理の軽減化と、哺育牛の疾病やストレス減少による発育増進が認められた。

■ 農場の飼養家畜:乳用牛

■ 家畜の飼養規模:152頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第四 野生動物等からの病原体の侵入防止

■ 写真



写真の説明

フリーストール牛舎周囲全体に防鳥・防虫のためのネットを設置。

■ 取組内容の詳細

当該牛舎一帯は、野鳥(カラス等)の飛来や吸血昆虫類(サシバエ及びアブ等)の発生が多いことから、これらが牛舎内へ侵入することにより、牛が一か所に集まる等ストレス負荷の増大及び搾乳作業への支障が確認され、さらには、新たな病原体の侵入が危惧されていた。これらの問題を解決するため、フリーストール牛舎周囲(4面)全体に防鳥・防虫のためのネットを設置した。牛舎周囲4面に設置したネットのうち、両側の2面に設置したネットは2重構造で、内側の下半分は牛が直接ネットに接触する可能性が高いため太く丈夫なものとし、外側はサッシ状の細いものとした。

■ 取組による改善状況等

防鳥・防虫のためのネットを牛舎周囲に設置したことにより、牛舎内へ侵入するカラス等の野鳥は完全に無くなり、また、サシバエやアブ等吸血昆虫類の牛舎内への侵入及び牛体への吸血被害も激減した。現在、牛は牛舎内で1か所に固まることなくほぼ均一に分布しており、また搾乳作業も効率よく行うことができている。さらに、監視伝染病の発生も認められていないことから、新たな病原体の侵入防止にも大きく役立っていると思われる。

■ 農場の飼養家畜: 牛

■ 家畜の飼養規模: 450頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第四 野生動物等からの病原体の侵入防止

■ 写真



写真の説明

牛舎周囲に防鳥ネットを設置。特に多数の結束バンドで上下を固定し、弛みがないよう設置。



■ 取組内容の詳細

畜舎への野生動物の侵入を最小限にするため、防鳥ネットを多数の結束バンドで固定し、弛みがないよう設置している。  
なお、定期的に防鳥ネットの破損箇所を確認している。

■ 取組による改善状況等

防鳥ネットを弛みがないよう設置することにより、畜舎への野生動物の侵入を防いでいる。

■ 農場の飼養家畜:豚

■ 家畜の飼養規模:繁殖豚75頭、肥育豚720頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第四 野生動物等からの病原体の侵入防止

■ 写真



写真の説明

肥育豚舎の全ての餌箱の上部に、アクリル板または木製の蓋を取りつけ、野生動物の排せつ物が混入しないよう必要な措置を講じた。

■ 取組内容の詳細

肥育豚舎の不断給餌設備の上部から、(パイプを伝って)ネズミ等が侵入し、餌箱に排せつ物が混入することが無いよう蓋を設置した。(当該農場は防鳥ネットの整備やネズミ駆除対策も実施している)。

■ 取組による改善状況等

防鳥ネットやネズミ駆除対策と合わせ、野生動物の排せつ物が混入しない管理がなされている。

■ 農場の飼養家畜:豚

■ 家畜の飼養規模:母豚110頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第四 野生動物等からの病原体の侵入防止

■ 写真



写真の説明

堆肥舎への防鳥ネット(テグスネット)の設置。

■ 取組内容の詳細

堆肥舎にカラスが多数飛来し、堆肥中の餌等をついばんでいた。豚舎内に人が出入りする際に網や戸を閉め忘れると、堆肥舎からカラスが移動し、豚舎内に侵入して豚舎内の餌を食べていた。これまで豚舎のカラスが侵入しそうな部分に網をかけ、侵入防止を図ったが、カラスは人のいる時間帯には堆肥舎で待機し人がいない時間帯になると移動し網や戸の隅を抜け豚舎に侵入していた。そこで、堆肥舎にネットを張った。従来の目の細かい太さ3mmのナイロン製ネットは重みがあり風を受けるため、ワイヤー等で強固に設置する必要があり設置には手間がかかる。またネットにテンションをかけピンと張るため、カラスに穴を空けられやすい。さらに目の細かいものでは通風の低下による換気悪化、ゴミによる目詰まりもあり設置には問題点が多かった。当該農場は目の粗く線の細いテグスネットを用いそれらの問題点をクリアした。

■ 取組による改善状況等

カラスは警戒心が強いいため、テグスネットの絡まって取れなくなる捕獲性を嫌い近づいてくることが無くなった。また網目の大きさ以下の小鳥に関しても、網が細く常に揺らいでおりそれ自体にとまる事ができない事と、前述の捕獲性のためか近寄って来なくなった。テグスネットの自重が軽いことと、風をはらみ難い事から設置は非常に容易で、40m×6mの設置に4人で2時間程度であった。開閉する部分の設置についても、網が軽いため開閉が容易で、施工も容易であった。難点として、換気扇、巻き上げカーテン等、可動機器がある部位については設置に工夫がいると考えられる。

■ 農場の飼養家畜:採卵鶏、種鶏

■ 家畜の飼養規模:15,000羽

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第四 野生動物等からの病原体の侵入防止

■ 写真



写真の説明

家きん舎の屋根や壁面に破損箇所がある場合には、遅滞なく修繕。

鶏舎床からの排水穴の出口に、緑色のビニールで覆われた鶏舎金網を丸めて挿入。

■ 取組内容の詳細

鶏舎の床洗浄の排水穴に、防鳥金網を丸めて穴に挿入する。  
床洗浄時には、金網を穴より取り出し、排水する。

■ 取組による改善状況等

従来、ビニール配管がされ、蓋がされていたが、老朽化により配管が破損する場合があった。  
配管の交換作業は手間がかかるため、その場にある、鶏舎窓の金網を、壊れた配管穴へ入れることにより、早期にネズミ等の野生動物の侵入を防ぐことができる。

■ 農場の飼養家畜:採卵鶏

■ 家畜の飼養規模:約10,000羽

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第四 野生動物等からの病原体の侵入防止

■ 写真



写真の説明

鶏舎側面に設置した金属製格子及びネットの設置。

■ 取組内容の詳細

野鳥侵入防止のため、2cm×10cmの金属製格子を鶏舎側面全体に張ったが、更にこの金属製格子の上にナイロン製の1.8cm×2cmのネットを張り、野鳥の鶏舎内侵入防止対策強化を行った。

■ 取組による改善状況等

2cm×10cmの金属製格子では、スズメに対して完全な侵入改善が認められなかったが、金属製格子の上に1.8cm×2cmのネットを張った所、野鳥の鶏舎への侵入は全く認められなくなった。

■ 農場の飼養家畜:採卵鶏(育成)

■ 家畜の飼養規模:127,000羽

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第四 野生動物等からの病原体の侵入防止

■ 写真



写真の説明

電気牧柵を農場の全鶏舎を囲むように設置。

■ 取組内容の詳細

本農場の育雛舎は旧式の高床式開放鶏舎であり、外壁をもたず、直接2cm以下の金網のみで鶏舎を囲っているため、外から雛が丸見えである。このため、夜間になるとキツネやテンなどの野生動物が農場内に侵入し、育雛舎の雛を襲うため、驚いた雛がパニックになり、圧死などの事故が多発、多い時期には鶏舎内の80%の雛が斃死したこともある。そこで、当初の目的はこれら野生動物を鶏舎に近づけないために、全鶏舎を電気牧柵で囲った。

■ 取組による改善状況等

全鶏舎を電気牧柵で囲ったところ、雛の斃死が激減した。野生動物の侵入がなくなったためであるが、経営的損失のみならず、野生動物による農場内への病原体持ち込みがなくなり、一石二鳥の取り組みとなった。費用は、全鶏舎周囲700m、20万円程度。

## ■ 農場の飼養家畜:肉用鶏

■ 家畜の飼養規模:850,000羽(48農場合計羽数)

## ■ 飼養衛生管理基準の該当項目

### 第四 野生動物等からの病原体の侵入防止

## ■ 写真

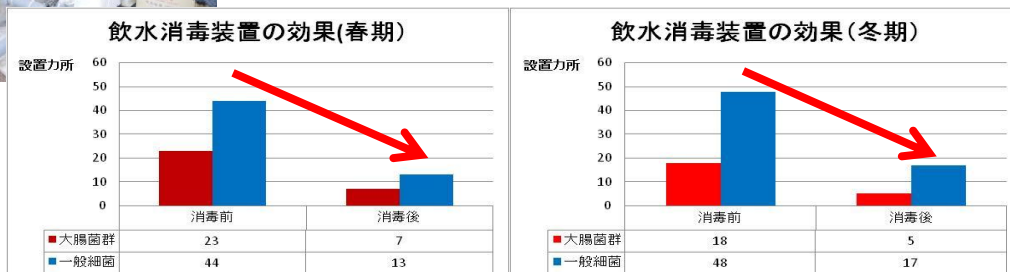


### 写真の説明

鶏舎の給水用水槽と消毒装置の設置。

沢から取水された水は、一旦、貯留水槽に貯められた後、塩素が適量添加、消毒された後、鶏舎へ飲水として供給される。

### 消毒効果



## ■ 取組内容の詳細

県西部の中山間地域は、古くから肉用鶏の飼養が盛んに行われている。しかしながら、その立地条件から鶏の飲水に沢水を利用する農家が多く、飲水消毒の徹底が喫緊の課題であった。

そのような中、平成22年度に9県24農場での高病原性鳥インフルエンザの発生や、家畜伝染病予防法の改正等を契機として、高病原性鳥インフルエンザの発生予防に万全を期すため、平成23年度に国の補助事業を活用し、県西部地域48養鶏場において飲水消毒器60台を設置した。

地域における、このような防疫対策の取り組みは、高病原性鳥インフルエンザの発生予防に寄与しており、家畜保健衛生所で実施した消毒前後の細菌検査成績を確認することで、より一層の防疫意識の向上も図られている。

## ■ 取組による改善状況等

飲用に適した水を給与することが可能となり、鳥インフルエンザウイルス等の感染防止に寄与している。

## ○衛生管理区域の衛生状態の確保

■ 農場の飼養家畜:牛

■ 家畜の飼養規模:450頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第五 衛生管理区域の衛生状態の確保

■ 写真



写真の説明

空房、空ハッチの清掃及び消毒(石灰乳塗布)。  
ローラーや刷毛を用いて入念に塗布している。



■ 取組内容の詳細

空房と空ハッチに石灰乳を塗布し、畜舎等の消毒を徹底して行っている。

■ 取組による改善状況等

取組みを始めてから、子牛の下痢および呼吸器病の発生が減少傾向にある。

■ 農場の飼養家畜: 豚

■ 家畜の飼養規模: 9,000頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第五 衛生管理区域の衛生状態の確保

■ 写真



写真の説明

豚房における火炎放射による消毒。

■ 取組内容の詳細

アウト後の徹底的な消毒(洗浄→乾燥→消石灰散布→火炎放射)を行った。

■ 取組による改善状況等

下痢や肺炎等の慢性疾病の減少が図られ、出荷日齢の短縮等の生産性の向上が図られた。

**○感染ルート等の早期特定のための記録の作成  
及び保管**

- ・来場者が積極的に記帳するようになった。
- ・また、従業員もより一層の飼養衛生管理を心がけるようになった。

■ 農場の飼養家畜:乳用牛

■ 家畜の飼養規模:成牛2,600頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第八 感染ルート等の早期特定のための記録の作成及び保管

■ 写真



写真の説明

外来者の受付管理棟の内部。  
入口と出口が別があり、立入者は一方通行で管理棟を通過。  
左奥のテーブル上に受付記録簿、壁に場内専用長靴がある。

■ 取組内容の詳細

農場出入口に、外来者の受付管理棟と車両消毒ゲートを設置し、衛生管理区域内に立入った者及び車両等に関する記録と消毒を徹底している。

外来者は、農場出入口にある車両消毒ゲートの手前で車両を停止させて降車し、受付管理棟に入る。管理棟内にある農場専用長靴に履き替え、記録簿に訪問時刻、氏名、用務内容等を記帳する。管理棟出口の外側に設置された消毒槽で長靴を消毒してから再び車両に乗り込む。車両消毒ゲートを通過して車両を消毒した後、農場内の目的とする場所へ移動する。

農場を出る際は、概ね入場時と逆の経路をたどり、管理棟内の記録簿に退出時間を記帳してから退出する。

■ 取組による改善状況等

この施設により、多い時で1日50人前後の外来者すべての立入り履歴を記録することが可能になり、家畜伝染病等の問題発生時に備えることが可能になった。また、訪問する人や車両の消毒の徹底等、外部に対して「安全・安心」な畜産物の生産をアピールすることができるようになった。当農場は外部からの見学者も多く、重要なポイントとなっている。

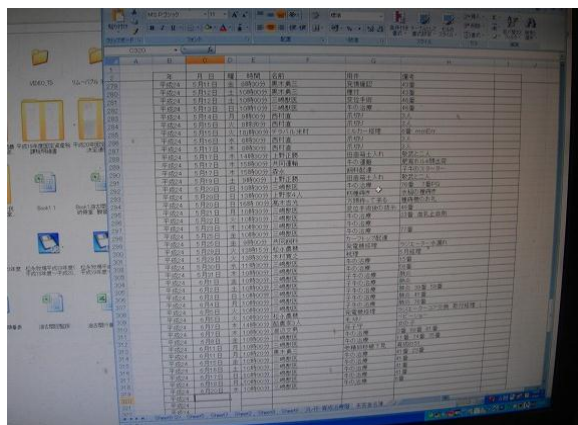
■ 農場の飼養家畜:乳用牛、肉用牛

■ 家畜の飼養規模:201頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第八 感染ルート等の早期特定のための記録の作成及び保管

■ 写真



写真の説明

来場者の記録をパソコンで管理。

■ 取組内容の詳細

来場者の記録を、エクセルソフトで管理している。

■ 取組による改善状況等

来場者の記録をカレンダー等に記帳していたが、習慣的なパソコン管理業務に来場者記録を追加することにより、確実な記録と保存が可能となった。

## ○複数の該当項目を含む事例

■ 農場の飼養家畜:牛(黒毛和種:一貫)

■ 家畜の飼養規模:繁殖22頭、育成15頭、肥育120頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体持込み防止

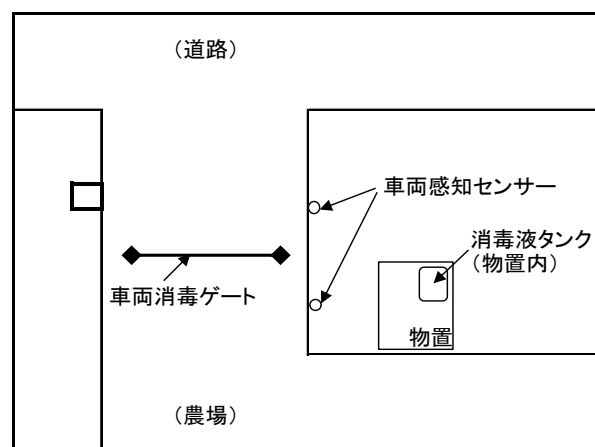
第八 感染ルート等の早期特定のための記録の作成及び保管

■ 写真



写真の説明

①車両消毒装置、速度制限標識を設置し、農場側に石灰帯を敷設。また、車両下部消毒用のノズルも設置。



写真の説明

②農場入口に受付兼資材置場としてスチール物置を設置。消毒資材・場内専用長靴を保管するとともに、受付簿記帳台と手指消毒スプレーを設置。

■ 取組内容の詳細

①農場入口に赤外線センサー付の車両消毒シャワーゲートを設置(商品名:簡易ゲート消毒システム NK-22EGB、参照 <http://panasonic.biz/es/air/agri/animal/0024.html>)。車両は必ず消毒されてから区域内に入る。

②ゲート脇にスチール物置を設置、受付兼資材置き場としている。ゲート用の消毒タンクや、場内専用長靴を収納するとともに、衛生管理区域内に立ち入る人の受付簿記帳台を設けている。台には手指消毒スプレーも設置している。

■ 取組による改善状況等

・従業員だけでなく、来場者(飼料運搬業、ヘルパー等)の防疫に対する意識向上が図られた。

■ 農場の飼養家畜:牛(黒毛和種:肥育)

■ 家畜の飼養規模:70頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第四 野生動物等からの病原体の侵入防止

第五 衛生管理区域の衛生状態の確保

■ 写真



写真の説明

- ・飼料置き場は通路を一直線に確保。
- ・通路の奥は粘着シートを設置。
- ・1頭ごとの飼料配合用バケツは、粘着シートで蓋をする。
- ・使用済飼料袋の整理整頓。
- ・使用するバケツを統一。

■ 取組内容の詳細

第四 ○飼料保管場所の野生動物の排泄物侵入防止措置

- (1) 袋飼料は通路を一直線に確保して整理整頓し死角を減らす。
- (2) 通路の奥は粘着シートを敷き、ネズミやハエを捕獲。
- (3) 1頭ごとの飼料配合用バケツに粘着シートで蓋をすることで飼料に集まるネズミやハエを効率的に捕獲する。
- (4) 使用済みの飼料袋も整理し潜みやすい場所を作らない。

第五 ○畜舎及び器具の清掃又は消毒を定期的に行っている

- (1) 器具は常に清潔を保ち整理整頓している。

■ 取組による改善状況等

- 高度な衛生管理意識により、
- ・ネズミ、ハエ等野生動物の発生が最小限に留まる。
  - ・牛舎・器具・牛体が清潔なため牛の観察やその他作業がしやすく、成績向上の他に疾病の早期発見、早期対応、まん延防止につながっている。
  - ・比較的安価なバケツを統一することで傷みが確認しやすく整理意欲も向上。

■ 農場の飼養家畜:牛(黒毛和種:肥育)

■ 家畜の飼養規模:70頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第四 野生動物等からの病原体の侵入防止

第五 衛生管理区域の衛生状態の確保

■ 写真



写真の説明

- ・飼槽とその周囲が清掃しやすいような構造。
- ・全てのウォーターカップに排水口を確保。

■ 取組内容の詳細

第四 ○給餌設備の野生動物の排泄物侵入防止措置

残飼の清掃の徹底のため、

- ・飼槽とその周囲を清掃しやすいよう容易に飼槽が持ち上がる構造にしている。
- ・全てのウォーターカップに排水口を確保し週1～2回全て流しきって清掃している。

■ 取組による改善状況等

高度な衛生管理意識により、

- ・ネズミ、ハエ等野生動物の発生が最小限に留まる。
- ・牛舎・器具・牛体が清潔なため牛の観察やその他作業がしやすく、成績向上の他に疾病の早期発見、早期対応、まん延防止につながっている。

■ 農場の飼養家畜:乳牛

■ 家畜の飼養規模:乳牛11頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持ち込みの防止

第八 感染ルート等の早期特定のための記録の作成及び保管

■ 写真



写真の説明

①立入禁止看板の設置、消毒機の設置、消毒の表示。

②入場記録簿の設置、記帳の表示。

■ 取組内容の詳細

立入禁止、車両・人の消毒、記帳について、分かり易く表示されている。コンパクトなスペースにまとまっている。

■ 取組による改善状況等

小さな農場ながら、来場者が自ら記帳や消毒を実施している。

■ 農場の飼養家畜:乳用牛

■ 家畜の飼養規模:搾乳牛22頭 育成牛15頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第三 衛生管理区域への病原体の持込みの防止

第八 感染ルート等の早期特定のための記録の作成および保管

■ 写真



写真の説明

第3衛生管理区域に入る車両の消毒を行っている  
第8衛生管理区域に入る者に関する記録帳の作成

①車両消毒設備外景。

②車両消毒設備内景。

③車両消毒設備の小窓。

④小窓を開けたところにある電動車両消毒設備のスイッチおよび来場者記録帳。

■ 取組内容の詳細

カーフハッチを利用して電動車両消毒設備を設置。また、カーフハッチの小窓を開けたところに電動車両消毒設備の起動スイッチを設置し、その横に農場来場者の記録帳が配置されている。

■ 取組による改善状況等

カーフハッチを利用して、屋外の最も適当な場所に車両消毒装置を設置できるようになった。また、消毒装置スイッチ横に来場者記録帳を置くことで、記入率の向上も図られている。

■ 農場の飼養家畜:肉用牛(繁殖経営)

■ 家畜の飼養規模:77頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第二 衛生管理区域の設定

第四 野生動物等からの病原体の侵入防止

■ 写真



写真の説明

衛生管理区域の境界に、人や野生動物の侵入防止を目的として、廃ガードレール資材を用いた柵及び門を設置。

■ 取組内容の詳細

衛生管理区域の境界を明確にするため、低コストな廃ガードレール資材を用いて柵及び門を設置した

■ 取組による改善状況等

衛生管理区域の境界が明確になるとともに、イノシシ等の野生動物の侵入が防止された。また、自宅から離れた牛舎のため、門を閉めて帰ることにより不法侵入のリスクが低減すると考えられた。

■ 農場の飼養家畜:牛(肉用牛繁殖)

■ 家畜の飼養規模:計3頭、繁殖雌牛2頭、子牛1頭

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第二 衛生管理区域の設定

第三 衛生管理区域への病原体の持込の防止

■ 写真



写真の説明

農場入口に、上方からパネルを吊し、衛生管理区域の境界の明示すると共に、立入禁止看板を設置。

■ 取組内容の詳細

農場入口に、上からパネルを吊し、衛生管理区域の境界を明示している。また、パネルに立入禁止看板を設置することで、部外者立入を禁止。

立入者前面にパネルが来ることで、衛生管理区域の明確な区分ができるとともに、最も目に入りやすい位置に立入禁止看板を設置することが出来ている。

パネルの上下動は手動であるが、看板の横は空いており、人の出入りは容易である。また、車両にあわせて高さを調節しておくことで、パネルを外すことなく農場内への車両進入が可能。

■ 取組による改善状況等

衛生管理区域の境界を明示でき、入場者、車両の入場制限を確実に出来るようになった。

## ■ 農場の飼養家畜: 豚

■ 家畜の飼養規模: 総飼養頭数4023頭 繁殖豚 378(雌371 雄7) 育成 45 肥育 3600

### ■ 飼養衛生管理基準の該当項目

- 第三 衛生管理区域への病原体の持ち込み防止
- 第四 野生動物等からの病原体の侵入禁止
- 第五 衛生管理区域の衛生状態の確保
- 第七 埋却等の準備

### ■ 写真



#### 写真の説明

- ①農場敷地(衛生管理区域)の出入口に看板を掲げ、入場者の入場を制限。
- ②衛生管理区域内の管理舎への入口に立入者専用の消毒用噴霧器を常設。噴霧器横のケース内に専用の消毒薬を保管。
- ③繁殖豚舎の出入口に豚舎専用の長靴を備え、入室の際に履き換え。また、豚舎内で使用した長靴は消毒し、左手の靴掛けで乾燥・保管。
- ④さらに繁殖豚舎の内部にも消毒槽を設けて、立入者の靴の消毒を徹底化。



- ⑤豚舎の横壁にはカーテンを設置し、野生動物の侵入を防止。
- ⑥出荷して空になった肥育豚舎は常に清掃、水洗、消毒。一定期間の空舎期間の後、子豚舎から豚を肥育豚舎に移動。
- ⑦農場敷地内に飼養頭数に見合った埋却用地を確保。

### ■ 取組内容の詳細

- ・豚コレラ、口蹄疫はもとよりPRRS等の各種疾病の侵入防止を農場経営の基本理念の一つとしている。
- ・現在の経営管理面で考えられる侵入防止対策に取り組んでいる。
- ・今年度新たに取り組んだ具体的な内容は、ハード面では敷地内の道路の簡易舗装化、新しい大看板の設置、ソフト面では従業員とともに参加する週一回のHACCP導入へ向けての勉強会の開催である。
- ・豚舎構造上の問題から、動線の交差の存在を一つの課題としており、来年度にかけて豚舎の改修を行う予定である。

### ■ 取組による改善状況等

- ・作業する従業員の作業工程、動線の見直し、作業時の消毒の励行を行った結果、作業服の汚れが目立って少なくなった。
- ・衛生管理の改善を行った結果、近年慢性疾病等の新たな発生は減少し、4年前に比較し肥育豚の事故率も7%から5%に低下した。これに連動して経営の足を引っ張っていた最大出荷日齢も200日齢から190日齢と10日間短縮した。
- ・農場管理者はこれに満足することなく、HACCP導入を念頭に生産性の向上を目指している。

■ 農場の飼養家畜:採卵鶏

■ 家畜の飼養規模:268,100羽

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第二 衛生管理区域の設定

第三 衛生管理区域への病原体の持込み防止

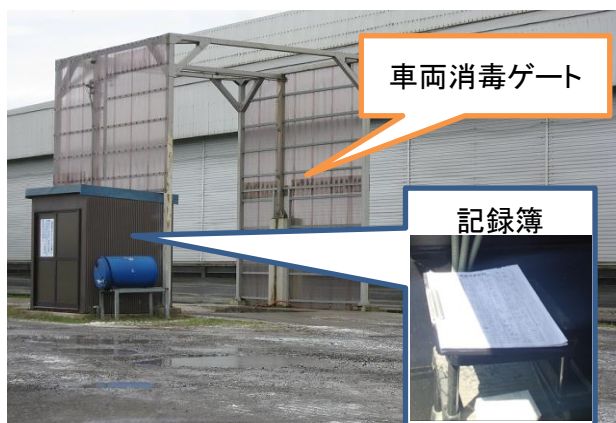
第八 感染ルート of 早期特定のための記録の作成及び保管

■ 写真



写真の説明

①植栽による衛生管理区域の設定。



写真の説明

②車両消毒ゲート設置による衛生管理区域への病原体の持込み防止。

③車両消毒ゲートの横にある小屋の中に来場者が記帳できる記録簿を設置。

■ 取組内容の詳細

①植栽を用いて、境界を設置した。

②車両消毒ゲートを設置した。上部及び左右から、消毒液を噴霧。

③来場者は、車両消毒ゲートの横の小屋で記帳することを取り決めている。

■ 取組による改善状況等

①植栽を用いて、境界を設置したことで、衛生管理区域を明確化することができ、さらに不用意な立入の防止につながっている。

②車両消毒ゲートを設置した。以前より、動力噴霧器を用いて車両消毒を実施していたが、誰もが通過することで消毒が可能となった。

③車両消毒は農場来場者が全て行うので、農場内の出入りの記録漏れを解消。

■ 農場の飼養家畜:鶏

■ 家畜の飼養規模:成鶏150羽

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第二 衛生管理区域の設定

第三 衛生管理区域への病原体の持ち込みの防止

第四 野生動物等からの病原体の侵入防止

■ 写真



写真の説明

(上)

病原体の持ち込み防止のため、1カ所に限定した出入口に立入禁止看板、コーン、手指消毒用スプレーおよび消毒槽を設置。

(中)

野生動物の侵入防止のため飼育場の四方および天井部に防鳥ネットを設置。



(下)

広い飼育場(約22m×19m)天井部の防鳥ネットを設置するため、防鳥ネットを支持する中央部に廃材(竹)を利用したやぐらを作成し。



■ 取組内容の詳細

旧プール設備を飼養場所として活用。既存の建物およびフェンスで四方が囲まれており、衛生管理区域の境界は明瞭。

出入口を1カ所に限定し、立入禁止看板を設置するとともに、手指の消毒スプレーおよび踏み込み消毒槽を設置し、衛生管理区域に立ち入る際に、手指および靴底の消毒を実施している。

野鳥等の野生動物の侵入防止のため、四方のフェンス部分および天井部に防鳥ネットを設置。

特に天井部については、広い飼育場(約22m×19m)中央部に廃材(竹)を利用したやぐらを作成し、防鳥ネットを支持するための工夫を行っている。

■ 取組による改善状況等

宿泊施設の敷地内に位置しているが、一般客が誤って立ち入ることがなくなった。

手指および靴底の消毒を実施することで、病原体の侵入を予防できている。

四方および天井部に防鳥ネットを張ることによって、野生動物の侵入を防止している。

■ 農場の飼養家畜:採卵鶏

■ 家畜の飼養規模:97,000羽

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第二 衛生管理区域の設定

第四 野生動物等からの病原体の侵入防止

■ 写真



写真の説明

- ・衛生管理区域の境界。
- ・衛生管理区域への野生動物の侵入防止。

■ 取組内容の詳細

- ・使用しなくなった鶏のケージを衛生管理区域境界に設置した。

■ 取組による改善状況等

- ・衛生管理区域の境界を明確にすることにより、従業員の衛生管理区域における意識が向上。
- ・使用しなくなった鶏のケージを利用することにより、資材費がかからなかっただけでなく、野生動物（ねずみ等）の侵入防止の一助になっている。

■ 農場の飼養家畜:その他(帯広市家畜伝染病自衛防疫組合としての取組)

■ 家畜の飼養規模:

■ 飼養衛生管理基準の該当項目

第二 衛生管理区域の設定

第三 衛生管理区域への病原体の持込み防止

■ 写真



写真の説明

・衛生管理区域の標識をカラーコーンで明示



・畜舎消毒マニュアルの作成

■ 取組内容の詳細

- ・帯広市家畜伝染病自衛防疫組合として、組合員の各農場へ衛生管理区域標識を配布し、区域の明示を図った。
- ・また、畜舎消毒マニュアルを作成・配布するとともに、組合として、畜舎消毒機を導入し、貸出を行うことで定期的に消毒を行えるようにしている。
- ・防疫資材についても、一括購入の斡旋を行うことで、組合員が資材を購入しやすい環境となっている。

■ 取組による改善状況等

- ・組合員の農場では、配布されたカラーコーンを利用し、衛生管理区域の明示を図れている。